

令和 2 年度

福岡県移住者子弟留学報告書

2020 Exchange Students Program for
Descendants of Immigrants from Fukuoka Prefecture

C o m p l e t i o n R e p o r t

Fukuoka International Exchange Foundation

公益財団法人福岡県国際交流センター

02

米倉 緒方 スサナ 優（在ポリビア福岡県人会）

中村調理製菓専門学校

06

リー マイルズ 清（南加福岡県人会）

九州大学大学院人文科学府



在ボリビア福岡県人会
米倉 緒方 スサナ 優
中村調理製菓専門学校

今回、福岡県移住者子弟留学生になりたかった理由は、小さい頃から祖父や両親が福岡県人会の行事に参加していた事もあり、私も県人会の親睦会や歓送迎会、福岡県の学生との交流会に参加させていただきました。そこで色々な方から福岡の話を聞いて、関心を持つようになり、いつか自分も行ってみたいと思い、今回応募させていただきました。

中村調理製菓専門学校を選んだ理由は、幼い頃から料理好きな両親の元で育った私は、その影響で大学は美食の勉強をしたからです。

四年間でいろんな科目を学びました。調理やパン、製菓などで、一年目に学んだパンの科目がとても興味深かったのを覚えています。それから卒業までの3年間の間に、兄がJICAで研修生として日本に行き、パン嫌いだっただ兄が『日本のパンはめっちゃくちゃ美味しい』と言ってパン好きになって帰って来ました。そんなパンを食べてみたい、作れるようになりたいという思いが強くなり、今回、福岡県の県費留学生としてチャンスをいただきました。

中村調理製菓専門学校の入学試験を受けるため、他の留学生より早く福岡に来る事ができたので、前年度の福岡県費留学生と交流ができました。日本での生活について不安だった私に電車やバスの乗り方、学校までの行き方を教えていただき感謝しています。中村調理製菓専門学校の入学式は4月2日で、新型コロナウイルスの影響で授業は5月18日に始まりました。友達も増えて寮の生活にも少しずつ慣れました。新型コロナウイルスの影響であまり外出ができない時は、早くコロナがおさまってほしいと思っていました。私と同期の留学生が来ないことになり、今年は私一人なので残念でした。

半年が過ぎ、楽しみにしていた日本で迎える初めての夏、新型コロナウイルスも落ち着いて、同期の留学生も福岡について一緒に祭りや花火を見に行ったりして夏を過ごしているだろうと勝手に思っていましたが、相変わらず新型コロナウイルスで外出を控えて、今まで経験したことがないような暑い夏を過ごしました。

福岡にいる元県費留学生の先輩方に誕生日をダンシングクラブで私が大好きなかきを食べながら祝ってもらいました。ボリビアでは食べられないのでとてもうれしかったです。マリノアシティ、

キャナルシティやコストコに買い物にも付き合ってもらいました。家族会の方々には食事や、海でのバーベキューに誘っていただきとても楽しくいい思い出ができました。皆さんには本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

そんな中、私の通っている中村調理製菓専門学校内で新型コロナウイルス感染者がでたため、3週間ほどオンラインで授業を受けました。実習の授業では先生がパンの作り方の説明をするのを聞いてレポートを書いたり、他の科目は同じくレポートや授業のまとめや科目によっては宿題をして過ごしました。同じクラスの友達にも会えなくて、実際にパンを作ったりすることもできなかったのでさびしく感じました。

新型コロナウイルスの影響で夏休みが9月になり、2週間の夏休みになりました。その間に校外実習を受けることになりました。校外実習は実際14日間で1日8時間の予定でしたが、新型コロナウイルスの影響で7日間になりました。私が住んでいる自協学舎九州寮の近くの家族経営のパン屋さんで1週間修行することになりました。実際にパン屋さんで作業の手順を学ぶことができよかったと思います。

留学生として福岡に来てもう一年がたとうとしています。学校も無事終わり、最初は日本での生活と学校生活に慣れるのに時間がかかりましたが、同じ学校の同級生達はとても優しくて私が分からないことがあったら親切に教えてくれました。先生方も気にかけてくれ、説明もわかりやすかったです。学校ではいろんなことを学ぶことができました。実際にパン生地を扱っていることで温度や成形や発酵時間や材料の大切さが分かって来ます。材料の役割を知ることによって自分の好みのパンが作れるし、失敗したときに原因がわかるようになります。先生と同じ作り方でやっても出来上がり、特にパンのボリュームが全然違ったりします。その理由はたくさんありますが、ひとつは生地の扱い方や成形によるものです。

パンの作り方だけではなく食品の正しい扱い方や食中毒の原因や予防や寄生虫による食中毒や異物混入、食品ロスについて学んだり、製菓や製パン業界についての大切なことや、社会人としての言葉使い、礼儀、お辞儀の仕方や面接のし方、身だしなみ、食品をどのように宣伝するかを学ぶことができ良かったと思っています。これからも学んだことを活かしていきたいと思っています。

この機会をくださった福岡県の方やボリビア福岡県人会の方には感謝しています。ボリビアに帰っても、福岡県人会として、これから来る後輩たちに役立てるような活動をして、ボリビアと日本の懸け橋になれるよう頑張りたいと思います。



中村調理製菓専門学校
担任 齋藤 重雄
(米倉指導教員)

米倉優さんは遅刻欠席も少なく非常に学習態度も真面目な学生です。

日本という四季がある国で環境の変化に合わせるのが大変な時期もあったとは思いますが、いつも明るくニコニコし、コミュニケーション能力も高く、みんなの調和を保ちながらクラスを陰から支えてくれ様々な事に前向きに取り組むことができる人材です。

学校の座学の方では日本語のヒアリングはできるが、自分の思いを書いて伝えることができずにモヤモヤしていたとは思いますが、提出物もしっかり出し座学の先生方もすごく褒められています。

実習の方では、ボリビアの大学の製菓の勉強をしていたためか、実技ののみ込みが非常に早く同じ班員を引っ張ってくれるような存在であり、班員も米倉さんと一緒だと頼りすぎてしまうくらい皆を引っ張っていってくれています。土曜日にも実技の練習に來たりしてしっかりと技術を磨く努力をしていました。その結果、実技試験もほとんど一回で合格し、ほかの学生の手本となる学生でした。

夏休みの校外実習先である「ぐうぱん」のオーナーさんも「積極性が素晴らしく、職場の雰囲気もとても明るくなってすごく働きやすかった」と言われていました。

このように持ち前の明るさと勤勉さそして夢をかなえるために努力をする姿は本当に尊敬するばかりです。

卒業後はまた、日本に戻り就職したいと言っていたので、何か力になればと思います。

今年度は、コロナウィルスにより学校が休校になり、イベント等が中止になったことにより色々なことを経験させてあげることができなかったことが心残りではありますが、ボリビアで自分自身のカフェを持つという夢を決して諦めず今回学んだことを生かしてほしいと思います。

南加福岡県人会
リー マイルズ 清
九州大学大学院人文科学府



日本に来ることができたのは去年の12月でしたが、春から九州大学のオンライン授業に参加していました。九州大学での授業は、大学での勉強の延長線上にあるように感じました。私はペンシルバニア州にある小さなリベラルアーツカレッジで、宗教学を専攻し、日本語を副専攻していました。私が九州大学を志望した理由は、私が大学の卒業論文で大いに参考にした学者が九州大学の「公人学部」の教員の一人だったからです。結局、私はこの教授の授業を受けることはできませんでしたが、知識が豊富で歓迎してくれる教授陣のおかげで、私は、日本の文化、言語、歴史についての理解をさらに深めることができました。

最初の学期では、古文、日本文学、日本美術史、日本宗教のフィールドワークの授業を受けました。これらの科目は、指導教官のカーター先生に相談して選びました。これらの授業は確かに大学で学んだことに関連したものでしたが、大学院レベルの授業は私が学んでいたレベルをはるかに超えていました。大学を離れて2年間を過ごした後、アカデミックな環境に戻ってこられたのは良かったと思います。特に、他の学生との活発な議論を楽しみにしていました。春学期はずっとカリフォルニアにいたので、授業に参加するために週に何度か深夜まで起きていなければなりませんでしたが。それにもかかわらず、これらの授業は刺激的で、米国で何ヶ月もロックダウンしていた後にリフレッシュすることができました。学期の終わりには、奈良の春日神社についての美術史のエッセイ、鴨長明とジュ

リア・クリステバを比較したエッセイ、中世の仏教書『正法眼蔵随聞記』の一部の翻訳を作成しました。

秋学期は、公人文学部の前近代日本史、安土桃山時代美術史、宗教の授業と同じような授業を受けましたが、学部外の授業にも参加しました。日本の近代史の授業と、日本語で英詩の授業を受けました。近代歴史の授業では、日本の近代文化について多くのことを知ることができ、日本の文化や社会について新しい視点を得ることができました。詩の授業は、非常に専門的な用語が使われていたので、私にとっては難しかったです。クラスで唯一の英語のネイティブスピーカーであった私は、日本人のクラスメートのために考察を共有し、詩人の考えを明確にすることができました。全体的には、この学期は日本の歴史と文化についての理解をさらに広げ、高度な日本語の議論に触れることができました。

秋学期の半分くらいで、ようやく日本に来ることができました。COVID-19の検査で陰性となった後、私は東京での2週間の滞在を余儀なくされました。私は今まで行ったことのない築地に滞在しました。授業の合間には、近くのコンビニに行ったり、たまに地元のお店で新鮮なお寿司をテイクアウトしたりしました。カリフォルニア郊外の実家を離れ、大都会の東京で孤立していたことは、心理的にも大きな変化でした。しかし、この一人の時間は、自分の勉強や周りの世界について考えることができました。

2週間の滞在が終わると、荷物をまとめ、地下鉄で成田空港を経由し、福岡に向かいました。香椎の寮に引っ越してきて、他の県費留学生や元県費留学生に会いました。香椎の周りをジョギングしたり、近くの神社を訪れたりしていました。学期中の授業はオンラインのままでしたが、九州大学を訪問することができ、電車とバスで1時間半かけて、最近できたばかりの伊都キャンパスに行くことができました。そこではカーター教授に直接お会いしたり、キャンパス内にある研究資料を閲覧したりすることができました。遠いので、残りの学期はキャンパスには行きませんが、アメリカに戻る前にクラスメートにも会う予定です。

2020年が終わり、家族会のメンバーと護国神社へ初詣に行きました。その後、大濠公園の日本庭園を散策し、近くの舞鶴公園で乗馬の撮影をしました。馬にまたがって刀を振り回している写真が西日本新聞に掲載されました。

福岡に来てからは、久留米の親戚の家に泊まることが多くなりました。授業はオンラインで行われていたので、久留米からも授業に参加することができました。コンビニやスーパーのインスタント食品を何週間も食べていた私にとって、家庭料理が食べられることは嬉しい変化でした。親戚と一緒に九州内の様々な場所に何度か行ってきました。私は再び糸島に行き、焼き牡蠣を食べ、地元のお店や神社をチェックしました。佐賀県にある美しい祐徳稲荷神社にも行きました。雪が降った日には、太宰府を訪れ、九州国立博物館に行き、授業で調べていた美術品や収蔵品を実際に見ることができました。祖父母がアメリカに移住する前に住んでいた八女にも訪れました。しかし、私が一番印象に残っている場所は高良山です。標高は312メートルと小ぶりで、比較的短いハイキングコースです。壮大な高良大社は山の頂上にありますが、私は山の上り下りの人があまり通らない道に沿って多くの小さな神社や仏像を発見してきました。

アメリカに戻ったら、秋にはロースクールに入学する予定です。日本にいる間、私はオンラインで願書を書いたり、学校に提出したりしていました。日本での勉強と時間に影響を受けて、私は日本とアメリカの法律の違いに焦点を当てた国際法のキャリアを追求したいと考えています。そのようなキャリアを積み、日本とアメリカの両方で行われる県人会のイベントに参加し続けることができると信じています。COVID-19の影響で日本での生活は短くなってしまいましたが、福岡や福岡の人々と深く関わることができました。今後は、他の県費留学生にもこの経験ができるようにサポートしていきたいと思っています。



九州大学大学院人文科学研究院
講師 CARTER CALEB
(リー指導教員)

リー・マイルズは、2020年4月から2021年3月まで訪問研究生として本プログラムに参加しました。この期間中、彼は九州大学の国際修士課程（IMAP、J. 広人文学）で私や私の同僚と一緒にフルカリキュラムの授業を受けました。彼の境遇は、特に COVID-19 のパンデミックに悩まされていました。当初は、留学期間中は福岡に滞在する予定でしたが、渡航の制限があったため、この期間は福岡に滞在することになりました。しかし、渡航制限のため、残念ながらこの期間は約4ヶ月に短縮された。そのため、1年間の留学計画を十分に活用し、福岡でのキャンパスライフを満喫することができませんでした。

このような困難にもかかわらず、マイルズは総合的に優れた学生でした。サンフランシスコの自宅から、オンライン授業に出席するために深夜まで起きていることもしばしばありました。マイルズは特に宗教学のコースに興味を持っていました。1つは日本でのフィールドワークに関するもの、もう1つは日本の宗教における聖地と「場所」の役割に関するものでした。私たちのオンラインクラスのセッションでは、彼は常にディスカッションや学生のプレゼンテーションの準備をしていました。彼は洞察力に富んだコメントをしてくれ、特に論文や本に対する反応は思慮深いもので、私たちの学術的な議論やクラスの雰囲気大きく貢献してくれました。マイルズさんが私たちのプログラムに参加してくれたことは、とても嬉しいことでした。彼の今後の活躍をお祈りしています。